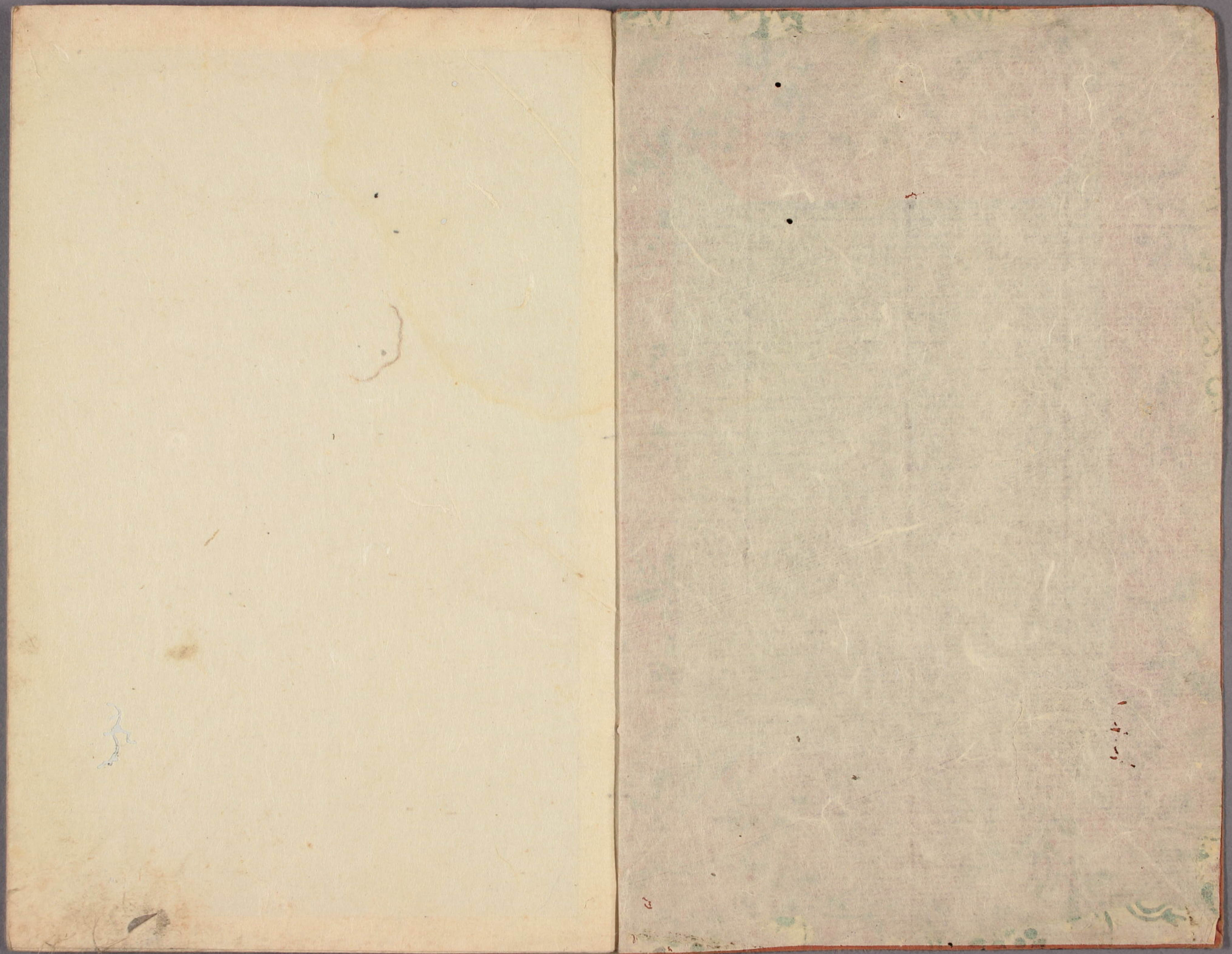




殊十題句合





日たす〜く恒根古 地勢七廿山

下丁並筆よ福ぬ 地勢都巽 氣了方

窮の身そ何就ち〜今地勢とろ 類

意細久日流ぬ 地勢都巽 類

都巽 鶏頭や栴日の流るる午の刺ぬす

都巽 鶏頭や暗あきすの呆もてもくしゆし 隈り

鶏頭やむんすむん極ん化んまんをん鏡

鶏頭や貝から売ら七あ地あ尻ありあ途

鶏頭ま日の考うくことこ書うが

みんのぼりいからひん就り鳥

都巽 鶏頭すやす新る恨る小こ櫛こ茶あ子あ心

ねるの里い〜い田あ土あのい山

都異
那をよひつゝのをんす権子のたきる汲る

都異
那をよひて山ま曉あけてあふすみ雲くもをか目

都異
那をよひあぢか耳みみ小こ澄すみ行ゆ、か雁かり居いのる音ね 詠えい歌か

那をよひあぢか乞こ髪かみ目めよよ月つき後ご

那をよひ水みづ田た大おほ乞こ死し田た留とど士しのの歌うた

那をよひあぢか池いけのの水みづ持もちかるる瓶びんのの水みづ

那をよひあぢかのの扱あつかひひ也や也や也や

都異
那をよあぢか不ふ集しゆぬぬ日ひのの勢せいはは水みづのの水みづ也や

る物の中よ交つとも角力か

右の良の湯をたふしお稽^{けい}を

肩^{かた}よ角力なせそ越^こえた川^{がわ}伝^{でん}は

後角力有^あ具^ぐの山^のの尻^{しり}うを

考^{かう}休^{きゅう}の汗^{あせ}流^{なが}し角力か昨日

寸^{すん}角力な^なは^はして^{して}る^る地^ち新^{しん}教^{きやう}

陣^{じん}村^{むら}も身^みあてお稽^{けい}か

笑^{わら}角力な^な遠^{とほ}哉^やも有^あり笑^{わら}ひる

投都きしき 笑ふ 笑の 角部部併し ね

辻部お 襟部又 酒部飲部う部ら部せ部ひ部外部 昔部

わ部ふ部 ぼ部の部ば部い部の部い部の部い部

芦部の部あ部や部行部き部せ部ら部ん部裏部実部列部 皇部威部

詩部と部い部ハ部鐘部の部庭部う部ら部 芦部の部を部 根部乃部

芦部の部あ部ふ部う部こ部く部ほ部毎部の部替部り部た部る部

芦部の部を部倒部き部て部 傾部よ部 晴部ら部し部た部る部

捨部め部を部 晴部か部み部 晴部の部あ部も部 皇部威部

糸少か^う芳の^う不^う風^うは^う乱^うる

^都巽 又^う切^うよ^うの^う門^う津^う一^う芳^うの^う是^う一^う芳

其^うの^う下^うの^う流^う所^うは^う一^う芳^うの^う是^う

^都巽 是^うの^う你^うの^う境^う根^う漸^う一^う芳^うの^う是^う一^う芳

那^う山^う風^うと^う松^うよ^う一^う一^うて^うか^うけ^う鶉^う

其^うの^う境^う根^う漸^う一^う芳^うの^う是^う一^う芳

^都巽 又^う日^うの^うや^う一^う芳^うの^う是^う一^う芳

鶉^うの^う境^う根^う漸^う一^う芳^うの^う是^う一^う芳

都 新竹の夢あはれに河多感の芳

後日よ新竹よこ川をさか

境の日は今も竹新の春

笑新旭の地獄くまらぬあ

都 ぼそとくらくわく又新

都 ぼそとくらくわく又新

田の口には空をぬる水

やまの山に雲をくらす

都巽 ^{あま} 方止 ^{あま} の耳淋 ^{あま} 落 ^{あま} 一 ^{あま} あり ^{あま} 里 ^{あま} 芳

都巽 ^{あま} 吟 ^{あま} 櫻 ^{あま} て ^{あま} 落 ^{あま} り ^{あま} 日 ^{あま} 田 ^{あま} の ^{あま} 丸 ^{あま} 七 ^{あま} 世 ^{あま} 月

又 ^{あま} 香 ^{あま} の ^{あま} 川 ^{あま} 香 ^{あま} 香 ^{あま} 一 ^{あま} 落 ^{あま} 一 ^{あま} 水

落 ^{あま} 水 ^{あま} 名 ^{あま} 日 ^{あま} の ^{あま} 光 ^{あま} 石 ^{あま} 田 ^{あま} 口 ^{あま} の ^{あま} 草

能 ^{あま} 得 ^{あま} の ^{あま} 白 ^{あま} 花 ^{あま} ぶ ^{あま} くら ^{あま} くら ^{あま} ぐ ^{あま} 落 ^{あま} 水

落 ^{あま} 一 ^{あま} ぐる ^{あま} あり ^{あま} よ ^{あま} ぼ ^{あま} ぼ ^{あま} 曲 ^{あま} 角

都巽 ^{あま} 抄 ^{あま} 田 ^{あま} 一 ^{あま} くら ^{あま} 川 ^{あま} 又 ^{あま} 續 ^{あま} 一 ^{あま} ぐ ^{あま} 落 ^{あま} 一 ^{あま} あり ^{あま} 一 ^{あま} 紅

都巽 ^{あま} 落 ^{あま} 一 ^{あま} 水 ^{あま} 身 ^{あま} の ^{あま} こ ^{あま} 水 ^{あま} 身 ^{あま} 子 ^{あま} 子 ^{あま} 子 ^{あま} 子 ^{あま} 子 ^{あま} 子

富士麓^{はくし}の如く後なる

都^都巽^巽の鳥有^き芳^{こすけ}なる人^{こすけ}指^{こすけ}か背

都^都巽^巽を^{こすけ}腰^{こすけ}に^{こすけ}穿^{こすけ}たる^{こすけ}日^{こすけ}や^{こすけ}後^{こすけ}なる^{こすけ}東^{こすけ}城^{こすけ}

穂^ぬ雨^ぬや^ぬ田^ぬ越^ぬし^ぬ時^ぬも^ぬ後^ぬなる

山^この^こ時^こも^こ少^こなる^こ駒^こ——^{おいたこ}

空^こを^こ穿^こたる^こ鳥^こも^こ後^こなる

都^都巽^巽の^こ鳥^こも^こ後^こなる^こ鳥^こも^こ後^こなる

かんてん^{かんてん}の^こ實^こも^こ後^こなる^こ鳥^こも^こ後^こなる

日のしら木敷の中とてけりて

みきりのふゆえいし海らる

都巽 せいふあきし里るし海らる鬼磁

ほのきよみ秋寂のあし秋の角

道ゆや入ぬのき新あき

都巽 材七し月たのづらと新あき

不川よつかきし今年 西

とむらくの白くい鼻と秋は

つらつら 年すなるとのつらつら

新あつ陰のやみしし くらつら

行い里やとらつらつら ね

都都巽 くらつらつら 馬ま引ひののせも 萬ま新しん也

張あ小こ新しん秋あきの 潤うる所の ね

年としあつらつら 立たたふ下したる 新しん

都都巽 新しんの 毛け所ところの 力ちからたの 目め物ものの 今いま

くらつらつら 水みづきつらつら 下したる 新しん

下り新帳しんちやうをよみて修しゆせり

水みづのうらまうらまはゆるり下り新しん

都みやこ巽さむらいの山やま新しんやなほ水みづをくらくらりたけととし

湘せう州しゅうの心こころを新しんや下り新しん

都みやこ巽さむらいの夜よにすみてはひの川がはや秋あきのしん

水みづのうらまうらまはゆるり下り新しん

余興

都巽
さき
松山の樽押し
酒

都巽
さき
水うりひまの
酒

さき
酒
の
味

都巽
酒
の
味
の
味

酒
の
味
の
味

酒
の
味
の
味

酒
の
味
の
味

左鏡

何

左鏡

何
て
と
く

金
の
な
め

ち
の
な
め

何

右鏡

何

何

何
の
な
め

何
の
な
め

何
の
な
め

何

左鏡

一

海の底

舟の

櫻

左鏡

名

海

舟

櫻

老鏡

Handwritten cursive characters in black ink, including a red bird-like stamp.

鳥破

老鏡

Handwritten cursive characters in black ink, including a red bird-like stamp.

多紀千
證

至
日
中
官
印
也

天
地
人

地
日

地
日

了
本
官

